



epoch

エポック No120

～千代田区生涯学習推進委員会議だより～

令和3(2021)年12月 発行



第13期第6回 概要報告

10月12日、第6回千代田区生涯学習推進委員会議が開催されました。以下、概要をお伝えいたします。

I 今期のテーマについて

「コロナ禍の生涯学習推進におけるICTの活用と支援の可能性」

事例紹介と第5回までの意見まとめから

意見交換に先立ち佐藤会長より、コロナ禍における国内各地の生涯学習支援・ICT推進取組事例が紹介されました。対面型授業が困難となり、学習会や講座、地域学校協働本部、子ども・若者の地域社会参画、障がいの有無を問わない学びなどあらゆる場面で、遠隔型（オンライン）、課題研究型、ハイブリッド型、さまざまな学習形態や活動、支援が工夫されてきました。

第13期生涯学習推進委員会議では、ICT活用をはじめ多様な学びは、コロナ禍における一時的な学習方法というよりも、Society5.0を踏まえ、あらたな学びのありかたにつながるのではないかとこの視点で議論してきました。第6回会議では、紹介事例と第5回までの意見を振り返りながら、さらなる意見交換が行われました。

【意見交換の主な内容】



オンライン・コミュニケーション

- 大学で対面授業を希望する学生が多いといわれているが、オンライン授業を希望する学生も多い。オンラインに慣れてきた現在、アクティブ・ラーニング*をどうやっていくのか、非常に難しい。ポジティブな取組みである生涯学習においても、ICT操作の次のステップとして、オンラインで行う双方向のやり取りの仕組み、コミュニケーションの取りかたが、大きな課題となるのではないか。
- 大学の授業を例にとれば、オンラインである必要があるかどうか、生徒側は気になるところではないか。

- 知的障がい者の生涯学習「日曜青年教室」ではパソコンを使用した年賀状を作り、実際に出すなど楽しんでいたがコロナ禍で休止した。各個人ではスマホやメールで止まっている。個人差は大きいですが、対面できないなかZoomなどを経験する機会があってもよかった。
- オンラインでの学習、配信などにおいて、個人情報保護と著作権の問題は課題・問題点として押さえる必要がある。

*アクティブ・ラーニング：授業を聞くだけでなく、対話し、自分で考え、主体的に参加する学習。



オンラインの有効性

- ちよだボランティアセンターでは、企業の得意分野を生かしたオンライン美術館巡り・オンライン工場見学、子ども向け企業社会見学を行っている。ICTの身近な楽しさを知り、企業の強みや学生の強みを生かした支援・人材の育成・確保につながる工夫をつづけていきたい。
- ICT、オンライン利用による『リアルでないメリット』もある。一般に公開しないものが見られるなど、その有効性をどう理解していただくか、方法や手段が必要ではないか。
- 学校では、これまで修学旅行や総合学習で得ていた体験が現在はできていない。しかしオンラインで居ながらにして、ある意味安心安全の環境で、本当に見てほしいものが大きく見えるなど効率の良さはある。生涯学習においても、高齢者、障がいのある方にも何か生かせる、興味関心が広がる。これは今後必要な分野ではないか。
- オンラインにより海外との交流がしやすくなった。海外のネイバーフッドハウス、コミュニティカレッジ、成人学習と連携し交流が可能ではないか。生涯学習の世界も変わるのではないか。

ICT 機器に近づきたくない、必要性を感じない。

- 「命を守る生涯学習」と文科省資料にあるが、千代田区はワクチン接種予約のLINEが来た。LINEを使える人はよいが、使えない人への草の根の講習会を継続してほしい。
- 機器に近づきたくない人、面倒だと思ふ人をどうするかは、第一歩として大事。スマホの効能を述べるだけでなく、どういうときにその効能を発揮するのかを伝える必要がある。
- 学校でも、今まであった関係の遮断が、ICT機器によってつながった。ここには学習内容だけでない安心感や効果がある。しかし筆が鉛筆に変わった時代のように少し時間がかかるのではないか。
- 使う楽しさのPRは大切だが、きっかけは対面、友人との会話からではないか。デジタルの実力ある人が1年程、各所に出没するなど、本当に心の通うPRをお願いしたい。

- ある程度の制限をかけたうえで誰でも触れそうなパソコンを公共施設や身近な場所に置き、未経験で触っても壊れないよ、と理屈でない体験ができるようにしておく工夫が必要ではないか。

“人生経験とスマホが補い合う”

- 75歳の母が「これからの時代はスマホがなきゃ駄目、スマートフォンを持つ」と宣言した。こう言い始めるくらいに何か思う「良さ」があると感じた。高齢者の方が今まで生きてきた経験や知識と、スマホが補い合うことができるのではないか。
- スマホはハードルが高いという部分が、本当はこれを受け入れたらすごく便利なのがたくさんある。企業側も巻き込んでスタート地点のハードルをもっと下げることができるのではないか

ちよだみらいプロジェクト～めざす姿～

区民一人ひとりが、多様な学習活動の機会を得て交流を深め、生涯にわたって学びを深めることができ、その成果を活かすことのできる生涯学習社会となっている。

- 『学習活動の機会を得て、その成果を活かすことのできる生涯学習社会となっている。』これをゴールとし、ここに必要不可欠なものは一体何だろうかと思ふことができる。今議論しているICT活用の仕方の道筋が見えてくるのではないか。
- デジタル化、情報格差ばかりがこれまで取り上げられ、話の中心になってきたが、「成果を活かす」というところでは、デジタルそのものが機械操作のみでなく、『人とのつながりとコーディネート』が中心であるところの1つの方法として考えたらよいのではないかと思っている。
- 個人でオンラインの講座を楽しめることも成果であるが、それを超えて町会やいろいろな活動のつながりができることが大変良い成果となるのではないか。



Ⅱ その他

ちよだ生涯学習カレッジ報告

① トライアルコース開講報告

開講：10月2日（土）～12月18日（土）

参加者：20名



- ◆参加者内訳：在住者16名、在勤者4名と在住者が多く、30代から70代までの幅広い年代。男性8名、女性12名。法政大学学生5名が生涯学習授業の一環として参加。※特別参加なので参加人数にカウントせず。
- ◆きっかけ：千代田区について学びたい。地域活動への導線にしたい。生涯学習に興味があった。短期間のトライアルコースに魅力を感じた。
- ◆参加への期待：千代田区について詳しくなれる。思いや考えを共有できる友人づくり。自己の学びの継続。
- ◆初日（第1回・2回）を日比谷図書文化館で開催。受講生同士の関係づくりを重視したグループワークを中心に行った。卒業生のサポートによって、多様な意見が出るディスカッションとなり、反響がよく熱量を感じた。
- ◆大学生にとっても自主的な学びとなったようである。

リレー随筆

「あきらめ半分……ぼやき半分……」

渡邊 由子

コロナ禍で大人数での講座開催が難しく多くはライン講座へと変更されました。

そんな中、生涯学習推進委員会議の資料に「ささえ愛まち会議 区民学習会 出張 LINE 講座」が有りました。参加者 13町会 20名、少人数でのきめ細かい学習会や相談の必要性など、今後の地域福祉活動の展望についても意見交換を行う等々、そこには富士見二丁目町会の名はありませんでした。

—生涯学習推進委員会議に富士見二丁目の人に参加していらっしゃるのでしょうか？

—町会と接点の有る人はいらっしゃるのでしょうか？

—どの様な段階を踏んだら実現出来るのでしょうか？

—無いものねだりでは……等々。

そんな事を思いつつ私が指名された時思わず口から出た言葉が「富士見二丁目町会にもライン講座が欲しい！」でした。

それから数日後、及川委員から「富士見二丁目町会シニア向け LINE 講座開催のご案内」を頂きました。当日の参加者 5名、事務局 6名（町会広報部長及川氏は及川委員のご主人です）法政大学 4名の構成となりました。

あきらめ半分……ぼやき半分……がこんなにも早く現実になった事に驚いています。

御尽力下さいましたスタッフの方々に厚く御礼申し上げます。

「習うより慣れる

人生100年の時代

変化を楽しもう！」と胸に刻んだ1日でした。





まち歩きは私にとっての生涯学習

福山 伸隆

千代田区は歴史の町でもあり、坂の町でもあります。町を歩いていると歴史的遺構の説明板や坂道の名前と由来を記載した標識をよくみかけませんか。実はそれらを月1回、異常がないかチェックするパトロールの役割を、私は担っています。リタイア後空いた時間になにかやりたい参加したいという目的で、この生涯学習推進委員会議以外にもいくつか登録しており、パトロールはその業務の一環なのです。

説明板や標識に書かれた内容から江戸時代、明治時代のまちの姿に思いを馳せています。今（11月）担当しているエリアは小石川、神田三崎町、駿河台、お茶の水のルートです。神田三崎町には明治の中頃三崎三座（東京座、川上座、三崎座）が狭いエリアにひしめき合い、多くの観客で賑わいを見せていたことが容易に想像できます。とくに川上座は破天荒な座長、川上音二郎のオッペケペー節でよく知られています。また、猿楽町と駿河台の境には関東大震災の復興事業として、男坂と女坂が新たに整備されました。そんな説明文を散歩のついでに、パトロールとしてですが、読み歩きするのが、私にとっては生涯学習のひとつになっています。

生涯学習は身構えて取り組むこともあるでしょうが、何気ない散歩の途中でも気軽に体験できるというのが私の心境です。

来月からは別のエリアを担当することになります。そこでまた新たな発見と学習ができることを楽しみにしています。

ICT を身近なツールとして

及川 早苗

2年におよぶコロナ禍で人と人との交流は途絶えがちでしたが、生活の中にデジタル機器の活用が一気に進み、リモートでの交流や学習が気軽にできるようになりました。世界のIT先進国に比較すれば周回遅れと言われる日本のDXですが、デジタル庁の大臣・副大臣も若返り今後どのように社会に浸透していくのか期待するところです。

25年前にWindows95が世界中で爆発的にヒットした頃、私はアメリカに住んでいましたが、キーを叩くだけでパソコン画面から世界に繋がるインターネットの世界を大いに楽しんでいました。現在は若者から高齢者まで全世代が簡単で使い易いスマートフォンを身近なICTのツールとして使うようになり、生活スタイルは大きく変わりました。

多様なアプリや機能を利用し便利さを演出するICT機器ですが、地域活動でもとても良い結果を生みました。町会と大学生のコラボ企画の「LINE講座」はスマホのスキルアップに加え、素晴らしい多世代交流の場になりました。画面越しでは味気ないと思われたリモート講座ですが、積極的に学びたい受講者と丁寧な解説をしてくださる大学生により、笑顔のある楽しい雰囲気を作り出されました。

デジタル機器はすでに生活の一部として手放せませんが、単に便利さを楽しむのではなく、画面の向こうには常に人がいることを意識して活用したいと考えています。

【編集／発行】

千代田区 地域振興部 生涯学習・スポーツ課 〒102-8688 千代田区九段南1-2-1

TEL 03(5211)3632 FAX 03(3264)1466

E-mail shogaigakushuu@city.chiyoda.lg.jp